

西三河秋季記録会

審判マニュアル

令和2年9月22日（祝）

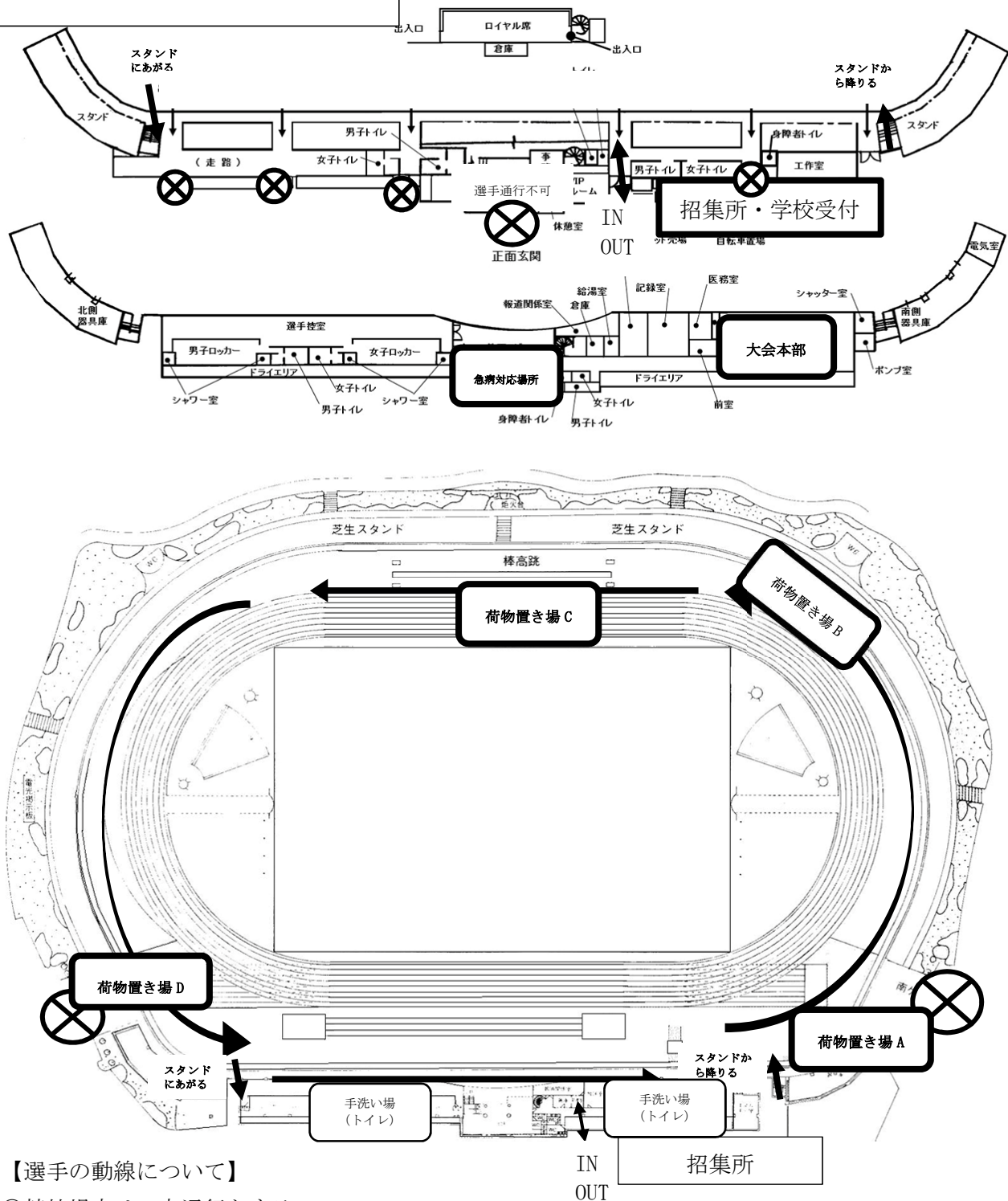
主任者会 8：00

部署打ち合わせ 8：15～

* 各部署の競技役員は関連する部署のマニュアルをご確認ください。

* ここに記載されていない部署も、アルコール消毒、手洗いに努め感染予防に配慮して運営をしてください。

競技場内の動線



【選手の動線について】

- ◎競技場内は一方通行とする。
- ◎出入口はスタンドに設け、それ以外の場所からは競技場への出入りはできない。その際、健康管理チェックシートを見せること。また、グラウンドレベルの北ゲートと南ゲートも封鎖する。
- ◎スタンドに入れるのは、選手と学校受付で配付されたIDを持った顧問や代表者のみ。IDは各チームに1枚ずつ発行する。競技場内には選手のみ入場可能とする。
- ◎競技場内を通過する際には、開催競技に支障が無いように十分配慮すること。
- ◎招集完了はタイムテーブル記載のとおり。場所はスタンドの外に設置する。その際競技役員に健康管理チェックシートを渡すこと。健康管理チェックシートを提出できない場合は出場を認めない。
- ◎トラック種目はゴール付近に設置した腰ゼッケン回収所で腰ゼッケンを返却し、荷物置き場に戻る。その際遠回りでも、グラウンドを一周すること。

◎競技終了後速やかにスタンドから退出すること。◎記録の速報は行わないので、記録速報ページで記録を確認すること。アナウンスによる発表は行う。

◎荷物置き場について

荷物置き場は競技に臨む最低限の荷物を置く場所とする。一人一枚大きめのビニール袋（40L以上）を用意し、その中に自分の荷物を管理すること。置く場所は、組ごとに指定するので、役員の指示に従うこと。それぞれの荷物置き場を使用できるのは、以下の通りとする

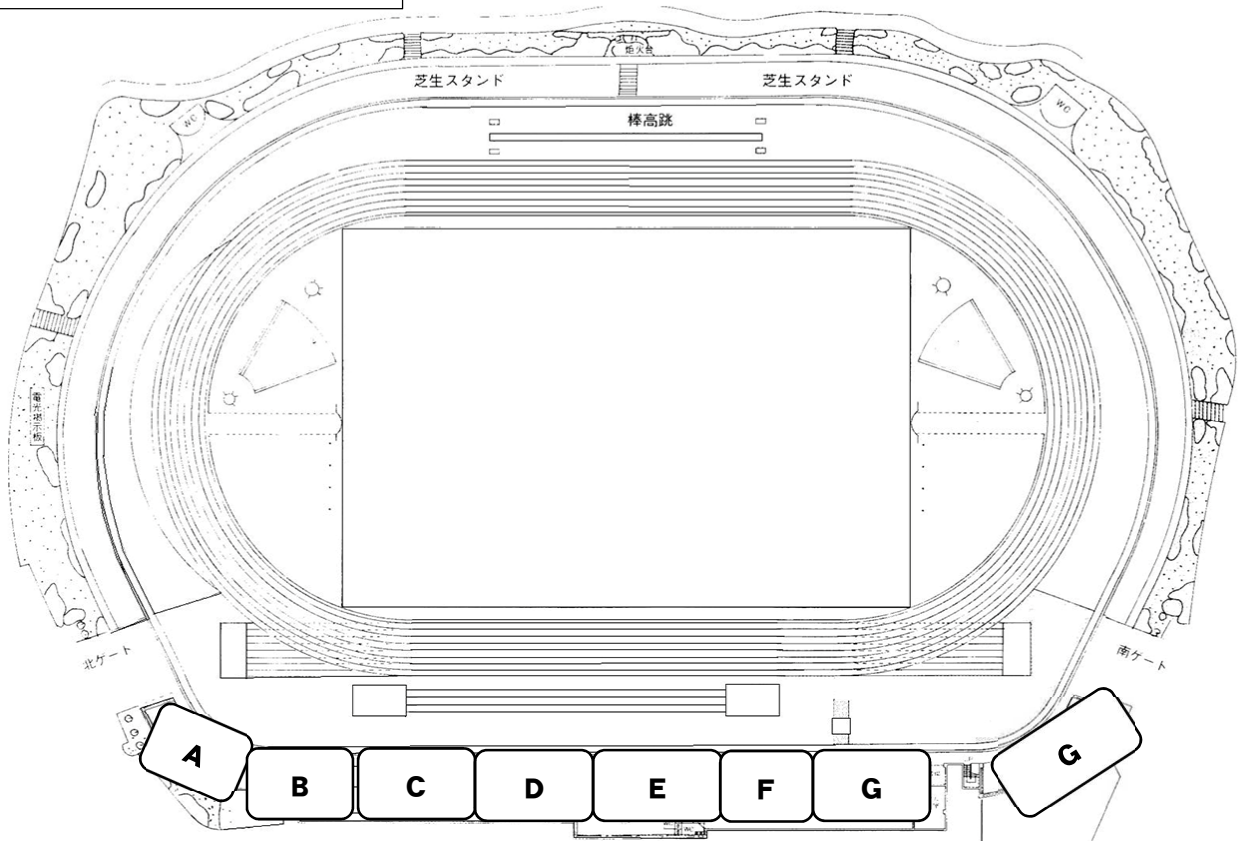
荷物置き場A：400m・800m・1500m（水筒等のみ）・3000m（水筒等のみ）

荷物置き場B：1500m（荷物）

荷物置き場C：200m・3000m（荷物）

荷物置き場D：100m・100mH・110mH

スタンド割り



【スタンド割りについて】

- Aブロック：西尾地区 Bブロック：刈谷・知立地区 C：安城・碧南・高浜地区
Dブロック：クラブチーム Eブロック：個人申し込み（愛知陸協所属）
Fブロック：豊田・みよし地区 Gブロック：岡崎・幸田地区

◎スタンド内に各チームの控え場所を設置することはできない。芝生スタンドにも各チームの控え場所は設置できない。

◎スタンドに入れるのは、選手と学校受付で配付されたIDを持った顧問や代表者のみ。IDは各チームに1枚ずつ発行する。

◎スタンドでは、座席は隣接する席を使わず、ソーシャルディスタンスを保つこと。

◎スタンド及び競技場内での応援は禁止とする。

◎競技終了後、速やかにスタンドから退出すること。その際、必ず手洗いをする事。

＜競技委員の留意事項＞

～ スターター ～

○ 運営に関わること

- ・ こまめに手洗いを実施する。(活動の前後は必ず手洗いをを行う)
- ・ 衣服の貸し借りは行わない。
- ・ 基本的にマスクを着用する。
- ・ 机・椅子など使用した部分については、使用後に直接アルコールを噴霧し、消毒する。

○ 競技に関わること

- ・ ピistol、マイク等の電気系統の用具を使用する役員が変わる場合は、アルコールを雑巾に噴霧し、拭いてから次の役員が使用する。
- ・ ピistolコード、電源ボックス、スピーカー、発射機などの常設してあるもののうち、電気系統の用具は、競技会終了後、片付けの際に、アルコールを雑巾に噴霧し、拭いてからしまう。
- ・ 他者と共有する用具を使用した場合(電気系統のもの以外)は、アルコールを直接噴霧する。
- ・ 当日の気温、湿度、競技時間などに沿って、ローテーションを決める。(例:午前午後、2班交代制 など)
- ・ スタート台の準備については、用器具と話し合い、準備する方法を決める。
(スターターが準備 or 用器具が準備)

～出発係～

- ・ 競技実施方法を確認し、選手に対応する。
- ・ ビニール手袋を着用する。
- ・ 選手と接する際、十分な距離を確保し、マスクを着用する。
- ・ 待機選手の間隔を十分に取らせる。
- ・ 選手を整列させる係を決める。
- ・ 予定時間より早く、他の組の選手を入れない。
- ・ トラック競技の選手控えは、スタート前3組程度までとする。
- ・ インカム使用時は必ずマスクを着用する。
- ・ 同じインカムを共用する場合は、消毒をしてから他の出発係に渡す。
- ・ レーンボックス及びスターティングブロックについては、全競技終了後消毒を行う。

<競技前後の留意事項>

☆ 競技前後の待機場所での密集を回避する

○待機場所について

・荷物は、指定の場所に置く。

200mなどは、トラック上に待機場所を設定する。選手は、審判員の指示に従うこと。※下図参照

・長距離種目出場者で、ゴール地点に水筒が必要な選手は、所定の水筒置き場に水筒を置く。

審判員は、「水筒置き場に水筒を置いてよい。」ことを選手に伝える。

・競技終了後、すみやかに待機場所に戻り、荷物を移動させる。また、待機場所には、競技場内のトラックの外側を通過して戻る。

< 2 0 0 m待機場所 >											
1組				2組				3組			
	8			8				8			
	7			7				7			
	6			6				6			
	5			5				5			
	4			4				4			
	3			3				3			
	2			2				2			
	1			1				1			

○その他

・自分の荷物は全てビニール袋に入れて管理する。※ ビニール袋は、選手が各自で準備する。

・競技終了後、すみやかに自分の荷物を持って退場する。

○審判について

・入場、退場の指示を出す人員を配置する必要がある。(出発係+1名)

監察係

- 基本的にはマスクを着用するが、熱中症等に十分気を付ける。
- 選手及び競技関係者と十分な距離が保たれている場合のマスク着用は強要しない。
- インカム使用時は必ずマスクを着用する。
- 同じインカムを共用する場合は消毒をして他の監察員に渡す。
- 黄旗及びイスについては、他の監察員と共用せず、全競技終了後消毒を行う。
- 走り終えた選手が、自分の荷物を取りに荷物置き場に歩いて移動する際に、レースの邪魔にならないように、スタートの際は静かに座るように促す。
- 選手が倒れた場合は、速やかにトレーナーに連絡をする。

朝の準備の動き

7 : 0 0 開門

7 : 1 0 準備にご協力いただける役員（特に跳躍審判員、監察、出発、用器具）は
走幅跳ピット付近に集合

準備割り振り（担当）

- | | |
|----------------|---------|
| ○走幅跳（森下） | 5 名程度 |
| ○走高跳（小松） | 5 名程度 |
| ○棒高跳（一ノ瀬） | 1 0 名程度 |
| ○テント・イス（本多・飯見） | 2 0 名程度 |

以後準備開始

マーシャルの運営マニュアル

○マーシャルの運營業務および配置人数 1 グループ7人程度 2 編成

- ① スタンド出入り口の管理 2人
- ② ウォーミングアップ場（芝生広場）＋競技場周辺の監視 1人
- ③ スタンドとグラウンドの階段 2人
- ④ グラウンド内 2人

○それぞれの部署で行うこと

① スタンド出入り口の管理

- ・ 可能な限り、フェイルシールドをつけて業務を行う。
- ・ 出入りをする選手の健康チェックカードをチェックし、入場を許可する。
最初にチェックカードを確認した際に、大きく赤○を打ち、2回目からはチェックカードの確認を簡略化する。入退場の際には、手指消毒を促す。
*体温チェックはしない。
- ・ 各チームの顧問はIDの確認をし、入場を許可する。その際に、手指消毒を促す。
- ・ 招集を終えた選手は、健康チェックカードをもっていないので、選手かどうか判断が付く場合は、入場を許可する。分からない場合は、ゼッケンを確認し、出場選手かどうかを口頭で確認する。

② ウォーミングアップ場（芝生広場）＋競技場周辺の監視

- ・ スタンド裏や芝生広場など選手がウォーミングアップをしている施設をまわる。
- ・ 選手が密集してウォーミングアップをしていたり、大きな声で話をしていたり、投擲物を投げていたり（普段でも許可されておりません）した場合に注意を促す。
- ・ 注意を聞き入れない場合は、主任に相談し、場合によっては本部に相談する。

③ スタンド

- ・ 生徒や顧問が密集して座らず、間隔を開けるように声をかける。
- ・ スタンドとグラウンドをつなぐ階段付近を重点的に監視し、動線に従わない選手に声をかける。
- ・ グラウンドに降りようとする顧問等の大人を制止する。
- ・ 声を出しての応援は禁止されているので、声を出して応援している場合は注意を促す。

④ グラウンド内

- ・ 選手に動線に合わせた動きを遵守させる。
- ・ 競技役員にも可能な限り動線に合わせた動きを促す。
- ・ ゴール地点・スタート地点の密集を避けさせ、密集している場合は解散させる。

新型コロナウイルス感染症対策（写真判定員）

○待機場所

- ・控え室など分散して待機し、密を避ける
- ・換気の徹底

○機器の消毒作業

- ・競技会開始前、競技会終了後にパソコンのキーボード、マウス、ランニングタイマーなどすべての使用機器の消毒作業（アルコールやウエットティッシュなどを活用する）

○その他

- ・マスク着用の徹底
- ・作業前後の手洗い・消毒の励行

○情報処理は以下の作業を競技開始前に必ず行う。

- ① ネットワークの確立
- ② 写真判定機との接続テスト

○戻ってきた機器は基あった場所に丁寧にしまう。その際に消毒出来る物は消毒をする。

＊数の確認を必ず行う行うこと。ケーブル類や端子類など細かい備品に注意！

○記録速報は随時チェックをしながらあげる。

○「適用外シューズ」使用者にはコメントをつける。

< 招集について >

競技者係

(1) 招集場所

スタンド裏：自転車置き場に設置する。招集完了後、腰ゼッケンを受け取り、競技場内の動線に従って、移動させる。その際、体調管理チェックシートを提出する。

フィールド種目は現地で招集を行う。その際、体調管理チェックシートを提出する。

(2) 競技用シューズの規定変更への対応

今年度の大会は、旧ルール（厚底のシューズ）で走ることができます。

ただし、その際に、誰が厚底シューズだったかを確認する必要があります。

旧ルールのシューズを使用する際には、本人が申し出ますので、申し出があったら、招集用紙にの名前の横など分かる場所に、「規定外」と明示した状態で、各部署に回す。

(3) 招集の流れ

- ① トラック種目はスタンド裏：自転車置き場 フィールド種目は現地で招集を行う。
- ② 競技場内の動線に従い、トラック種目はスタート地点、フィールド種目は現地に行く。
- ③ 待機場所はソーシャルディスタンスを確保して、場所をつくり、レーンごとに荷物を置くこととする。選手には、招集場所に早く来すぎることをないように注意する。
- ④ 腰ナンバーカードについては、招集所で貸与する。走り終わった後、腰ナンバー回収所で回収し、消毒をした上で、次の走者が使用する。
- ⑤ フィールド種目は、各種目の審判が現地にて距離を保った状態で選手を待機させ、招集を行い、ゼッケン等の確認をする。招集用紙は、フィールドの記録用紙と兼ねる。
* 招集の結果を他の部署にもっていく必要は無い。記録処理と同時に情報処理で欠場処理を行う。
- ⑥ トラック種目は、招集が完了した後、PC への入力を行う。各部署へのコール用紙の配付は招集所で複写し、行う。

(3) 招集後から競技開始まで

- ① トラック種目については、招集完了後、選手の待機場所へ移動する。待機場所では場所を指定して距離をとって待機させ、競技の準備を行う。待機場所での動きは出発係の指示に従う。招集時に、荷物が入る大きさの袋やかばんを持参し、競技開始前にシューズ以外の荷物を入れる。競技前のウォーミングアップは競技場の空きスペースで行う。出発係の指示で、スタート地点に移動し、競技を行う。
- ② フィールド種目については、招集完了後、審判の指示によりウォーミングアップ、競技を行う。

(4) 競技終了から荷物の引き上げまで

- ① トラック種目については、ゴール後、トラックを歩いて 1 周し、荷物が置いてある場所へ向かう。選手は、袋やかばんに入った自分の荷物やシューズを持ち、入場したゲートから速やか競技場外に出る。

審判は、選手の誘導や待機場所から出るように指示する。着替えなどはこの場所では行わないようにし、次の選手を入場させる。

- ② フィールド種目については、競技終了後、速やかに退場する。

(5) その他

- ・選手・役員以外の者が競技エリアに入らないように、各場所を閉鎖しておく。
- ・更衣室の使用は女子のみ許可する。
- ・指名の訂正は招集所で受け付ける。コール用紙と訂正プロに記入する。情報処理はコール用紙の訂正を見て、データ上の訂正を行う。訂正プロは大会終了後本部に提出する。

走高跳

1 準備

- ・極力少人数で準備を行う。準備後も手指消毒を徹底する。

2 審判の人数(4名)

- ・主審(1名)
- ・記録・呼び出し(1名)
- ・バーの上げ下げ(2名)

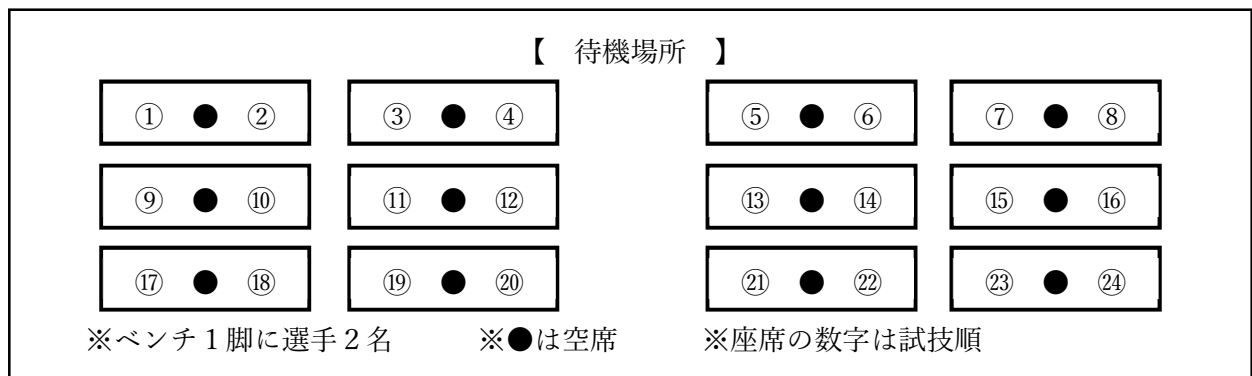
3 競技

①練習試技

- ・助走合わせは競技役員の指示のもと行う。
- ・試技順に競技役員が一人ずつ呼び出す。
- ・助走マークの貸し借りは禁止とする。
- ・競技者は必要に応じて手指消毒を行う。

②招集

- ・座席指定で行う。
- ・走高跳の競技役員は招集の際に選手から健康チェックカードを回収する。



③試技

- ・ピットには跳躍者、次の跳躍者のみ待機
- ・競技者は跳躍前後に手指消毒を行う。
- ・フィールド内での練習についてはソーシャルディスタンスを意識するように依頼する。

④競技後

- ・手洗い、洗顔、帰宅後すぐに入浴するように呼びかける。
- ・競技が終わり次第、審判員の指示のもと各自競技場所から移動させる。

4 感染予防対策に伴う希望物品

- ・手指消毒用の消毒液→選手待機場所付近に設置する。

棒高跳び

1. 準備

- ・棒高跳セット一式（リボンロッド 50m、吹き流し 2、記録板、紅白旗、テーブル、椅子）
- ・マットは、例年通りの補助員が必要。補助員がいらないなら、8 名必要。
- ・支柱組み立てには、6 名程度必要。用器具係と協力しながら設置
- ・競技役員は、主審、記録の 2 名。競技補助員は、2 名。

2. 共有使用物

- ・ポールや炭酸マグネシウム等の使用については、原則、個人で準備した物に限る。共有する場面が生じた場合は、消毒をすることを指示する。

3. 招集

- ・現地集合とする。
- ・消毒と手指に施す。
- ・トイレ、手洗い場の説明
- ・必要以上の器具への接触を禁止する（バー、支柱、リボンロッド、テントフレームなど）

4. 待機場所

- ・ベンチへは間隔を空け、両端に 2 名までとする。（中央は空ける）
- ・試技順にベンチ座席を指定する。
- ・待機場所では、可能な限りマスクを着用する。ただし、熱中症等の危険性がある場合は外しても良い。極力会話は避ける。

5. 練習跳躍

- ・原則、試技順に練習を行う。競技役員が指示を出す。
- ・跳躍の順番待ちをする際、跳躍をする選手と、次に跳躍をする選手の 2 名までとする。
- ・踏切足の確認は、競技役員で行う。できるだけ口頭で行うものとする。

6. 競技中

- ・跳躍の順番待ちをする際、跳躍をする選手と、次に跳躍をする選手の 2 名までとする。
- ・炭酸マグネシウムの使用は競技役員が適量渡すことも可能。（ペットボトルに入れてピットまでもっていき、中身を渡す。各選手には取らせない。）

7. 競技後

- ・競技が終了した選手から順に、競技場所から移動をする。
- ・手洗い、洗顔、帰宅後すぐの入浴を呼び掛ける。

8. 片付け

- ・棒高跳セット一式、支柱、マット・・・アルコール消毒
- ・片付けは人手が必要です。ご協力ください。

砲丸投

1 準備

- ・極力少人数で準備を行う。準備後も手指消毒を徹底する。

2 審判の人数(5名)

※消毒、滑り止め配布などの担当を1名つけること

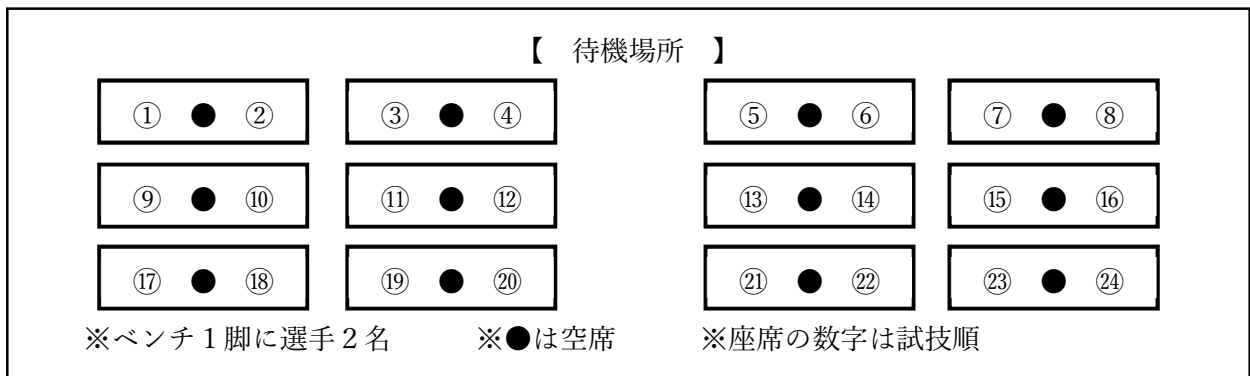
3 競技

①練習試技

- ・試技順に行い、呼び出した選手のみ投擲物を取りに来させる。滑り止めが必要な場合は、このタイミングで申し出る。なお、滑り止めはペットボトルに入れて保管し、ペットボトルから選手の手のひらへ直接配布する。
- ・投擲後に手の消毒、投擲物の消毒。

②招集

- ・投擲の競技役員は招集の際に選手から健康チェックカードを回収する。
- ・座席指定で行う。



③試技

- ・呼び出した選手のみ投擲物を取りに来させる。
- ・投擲後に手の消毒、投擲物の消毒
- ・フィールド内での練習についてはソーシャルディスタンスを意識するように依頼する。

④競技後

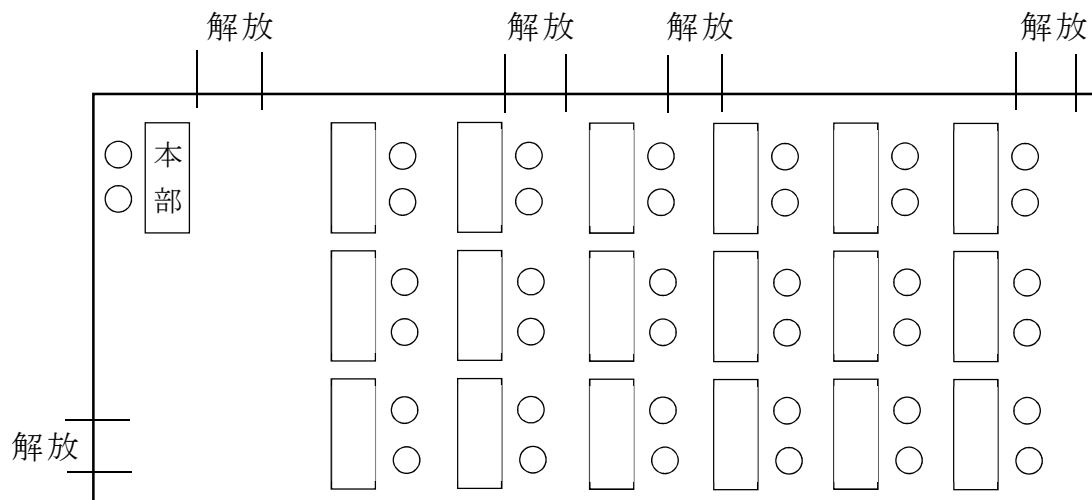
- ・手洗い、洗顔、帰宅後すぐに入浴するように呼びかける。
- ・競技が終わり次第、審判員の指示のもと各自競技場所から移動させる。

4 感染予防対策に伴う希望物品

- ・手指消毒用の消毒液→選手待機場所付近に設置する。

陸上競技場の部屋割りについて

- ・放送室：アナウンサー・役員係
- ・記録室：写真判定員・記録係
- ・会議室：総務員・競技役員の休憩場所
- ・報道関係室：体調不良者が出た場合、経過観察をするために使用する



- 長机 1 台につき椅子を 2 脚として競技役員等の休憩場所とする。
- 会議室倉庫前を本部とする。
- 地下ロビーへつながる出入口と東側ガラス引戸 4 か所を常時開放とし、換気を図る。

- ・選手控室：男子ロッカーとシャワー室は、使用禁止とする。
養生テープ等で座る位置を示し、走幅跳の選手待機場所とする。

体調不良者への対応について

- ・ロビーにて対応する。
- ・ロビーへの出入りは、選手の動線に準ずる。
- ・経過観察が必要な場合は、報道関係室で対応する。